

岩松川感潮域の魚類(3)

辻 幸 一[※]

岩松川河口感潮域の魚類については今までに4回報告した(辻, 1981a, 1981b, 1983, 1986)。しかし, 報告書作成の時点で3種については種名の判定ができなかったため, 目録に入れなかった。その後, 日本産魚類についての詳しい図鑑が次々に発行され(川那部・水野: 1989, 沖山: 1988), それによって同定できたのでここに追加報告したい。この結果, 岩松川河口感潮域から記録された魚類は17科47種となった。

追加魚種

イセゴイ *Megalops cyprinoides*

(カライワシ目カライワシ科)

1984年8月26日にst. Bで全長25.4mmのレプトセファルス幼生を1尾採集した。本種は, 熱帯・亜熱帯域に広く分布する大型の魚種で, 日本では南西諸島などで見られる。幼生が南日本の黒潮の影響を受ける地域に出現しているので, 黒潮によって宇和海までたどりついたものと考えられる。このカライワシ目の魚類はウナギなどと同じように柳葉状のレプトセファルス幼生の時期を持っていて, 尾びれの後縁が切り込むことでウナギ類と区別できる(沖山, 1988)。

ゴマフエダイ *Lutjanus argentimaculatus*

(スズキ目フエダイ科)

1986年10月25日に体長20.4mmの幼魚を1尾採集した。本種は熱帯・亜熱帯域の内湾や汽水域に生息し, 成魚は50cmに成長する。南日本の各地の河口汽水域から幼魚が記録されている。岩松川河口域では1尾しか採集できなかったため, そう多くは生息していないと予想される。

サツキハゼ *Parioglossus dotui*

(スズキ目ハゼ科)

1990年4月28日にst. Bで体長18.0mm~20.5mmの成魚を4匹採集した。本種は河口汽水域と内湾に生息する小型のハゼである。岸近くの中層を数十匹の群れで遊泳する性質があり, 採集時もこのような泳ぎ方を観察した。

文 献

- ・沖山宗雄編, 1988. 日本産稚魚図鑑, 16-17, 東海大学出版会.
- ・川那部浩哉・水野信彦編・監修, 1989. 山溪カラー名鑑「日本の淡水魚」, 46・524・564, 山と溪谷社.

- ・辻 幸一, 1981a. 岩松川河口域のハゼ科魚類調査. 昭和55年度愛媛県科学技術教育研究収録, 30-39, 愛媛県教育委員会.
- ・辻 幸一, 1981b. 同上(Ⅱ). 愛媛県高校理科, 第18号, 67-70, 愛媛県高等学校教育研究会理科部会.
- ・辻 幸一, 1983. 岩松川(愛媛県)感潮域の魚類. 淡水魚, 9号, 90-91, 財団法人淡水魚保護協会.
- ・辻 幸一, 1986. 同上(2), 愛媛県立宇和島東高等学校研究紀要, 12号, 48-59. (つじ こういち)

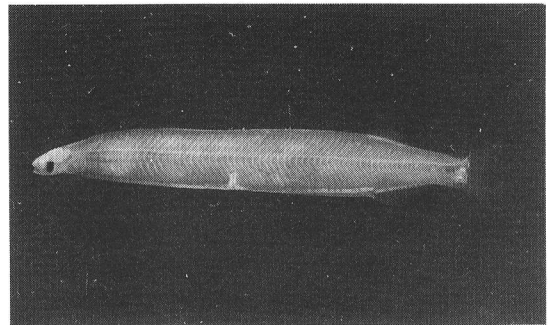


写真1 イセゴイ '84.8.26. (25mm)

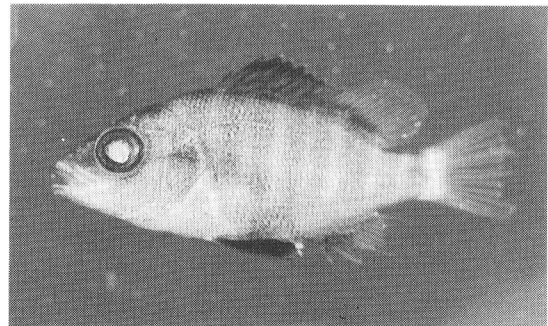


写真2 ゴマフエダイ '86.10.25. (20mm)

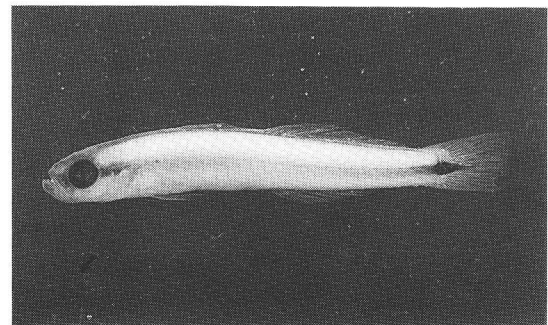


写真3 サツキハゼ '90.4.28. (21mm)